

中学英語でやさしく身につく!!

# インタビュー式 英会話

塩田 寛幸 著

FUJI KYOIKU

## はじめに

大勢の人が英語を学習しているにもかかわらず、実際に英語を使いこなす技術を身につける人の数はきわめて少ない、とたびたび嘆かれています。

でも、よく考えてみると、これまでの学習がおもに読み書きに重点をおいてきたのですから、当然のことかもしれません。

しかしながら、これからは国際化時代——英語を使って国際社会で活躍する人、広く世界の文化に目を開いて勉強しようとする視野の広い人、が数多く育てほしいものです。

そこで、これまでの読み書き中心の勉強方法から思い切って発想をかえ、「英語をしゃべる」ことを中心にした勉強方法をめざしてもらおうと、本書を企画しました。

本書は、1対1での対話練習の有効性を考え、そのための質問事項を80のテーマに分けて紹介してあります。自由に、のびのびと英語を使うことの楽しさを味わって下さい。

野球上達の基本は、常にボールに触れ、なじんでいるという「ボール感覚」です。このことはそっくり英語の学習にもあてはまります。英語における「ボール感覚」が知らず知らずのうちに身につくのが、本書で紹介する1対1の質問・応答——これを「インタビュー式」英会話とよぶことにします——なのです。さあ、始めましょう!

著 者

## 「インタビュー式」英会話とは どんなものが、そしてメリットは？

### 1 まず話しかけよう！

話しことばの学習で最も大切なことは、頭に浮かんだことを実際に口を使ってしゃべってみることだと思います。

頭の中で考えているのと、実際に口を使ってしゃべるのとでは大きな違いがあります。自分の頭の中でつぶやいているだけでは、他の人からの反応(response)はありません。相手に話しかけることで初めてなんらかの応答が生まれ、コミュニケーションのきっかけとなるのです。

応答がかえってくると、今度はあなたがその人のことばを聞き取るという作業に発展します。自分の頭の中でつぶやいているという、いわば静止したことばの状態も、ひとたびだれかを相手に話し始めたとき、動的な状態へと変化するのです。おしゃべりを通しての話しことばの学習がスタートするわけです。

### 2 ことばの練習は「1対1」の質問・応答が効果的だ！

ここでいう「おしゃべりを通しての話しことばの学習」というのは、「1対1」での質問・応答形式の英会話」のことです。

#### なぜ「1対1」がいいのか

まず、「1対1」の形式について——「1対1」というのは、〈話の内容が常に自分とかわっている〉という意味で最も効果的な形式です。学校の英語の授業の場合、先生が話していても、自分が直接質問されているのでないときは、ただ聞きっぱなしになったり、話を注意深く聞かなかったりすることがあります。これに対して、1対1となると、常に自分が質問したり答えたりしなければならないのですから、2人間で交わされる話はお互いにとって〈注意をそらすことのできない大切な内容〉になるのです。

#### なぜ「質問・応答」なのか

次に、「質問・応答」という形式について考えてみます。日本語の会話とちがいで、さあ何を話しましょうかといっても、あらかじめ話す内容を用意していないと、英会話はスムーズに運びません。そこで、自分にとって興味あるテーマについての質問を考えておき、それをもとに話を進めたり、あるいはまた、相手の趣味に関する質問を軸に話を進める方法がいいのです。知りたいこと、聞きたいことを聞き出すのだということに最重点を置くようにすれば、少々のミスも気にならず、「自然な学習」ができるわけです。

### 3 「インタビュー式」英会話と呼ぼう！

このように「1対1」で、しかも知りたいこと、聞きたいことが得られる「質問・応答」という最も効果的な方法を「インタビュー式」英会話と呼ぶことにします。

### 4 自分のペースで英会話ができる！

1対1の「インタビュー式」英会話には、自然な形で学習が展開できるというメリット以外に、他にもメリットがあります。英語をしゃべる際につきものの、相手からべらべらまくしたてられるとあがってしまってしゃべれなくなるという問題がない点です。

「インタビュー式」英会話では、こちらから先に質問することで終始会話のペースをにぎり、自分の得意な話をすることができます。話の内容は自分の興味のあることで、自分が用意したものです。そうなると、相手の返答も聞きやすく、少し知らない表現がでてきてもだいたいのことがつかめるはずで、です。ですから、あがったりすることなく、余裕をもって英会話を楽しめるのです。

### 5 自分の知りたいことを直接扱える！

「インタビュー式」英会話には学習形態の点から大きなメリットがあるということの他に、「自分の知りたいこと、聞きたい話が直接聞ける」というメリットがあります。話相手に質問し、情報を得る、おもしろい話を聞き出す、それは何と素晴らしい学習活動ではないでしょうか。



# インタビューの楽しみ方

## 1 質問項目を用意しよう！

「インタビュー式」英会話を行おうとするときの決定的なポイントは「質問内容」です。どんな質問項目を用意し、相手にぶつけてみるかがこの「インタビュー式」英会話の成果を左右するものです。しかも質問というのは即座にはいいものが浮かんできません。ですから、できることなら質問項目をあらかじめ考えておくことが望まれます。

その際注意したいのは、まず自分の生活に直結したことがらを扱うようにすることです。たとえば、自分の毎日の行動のこと、それから過去の経験・出来事・それに将来の夢といったものです。——この本は諸君にとって最も身近で、モデルになると思われるテーマを集めてあります。

## 2 親しい友人に呼びかけて定期的に おしゃべりの時間をつくろう！

自分1人だけで英語の有効な勉強方法はないものかと考えていないで、思い切って、英語に興味をもっている人に声をかけてみましょう。

1人では続けにくい英語の勉強も2人でやればお互いに勇気づけられ「静的な学習」から「動的な生き生きとした学習」へと発展することでしょう。その際お互いの約束ごととして、時間と場所についてはお互いの都合を考えて選び、長く続けられる条件づくりをしておくことが大切です。たとえば、毎日放課後の何時に学校内のベランダでとか、あるいは毎週土曜日の午後と日曜日の午後お互いの家とかいったぐあいに。

## 3 話題を決めたら、角度をかえ、掘り 下げて、根掘り葉掘り質問をしよう！

たとえば、遠足というテーマを思いつけば、具体的にいつ、どこで、だれと、……といったぐあいに「記者会見」のような感じの「追求する姿勢で」質問を続けていくのが会話を続けくらませるコツです。日本語でおしゃべりする場合だとふつうはあまり根掘り葉掘り聞くのは失礼

になり嫌われるものですが、英語を使った場合には、思い切ってズバズバ質問してもさほど気になりません。たとえ気になったとしても、ここではしゃべる機会を多くもつことに最重点を置くべきだと考え、遠慮なく「直撃インタビュー」を行いましょう。

## 4 お互いに質問し合おう！

同じテーマ、同じ質問を2人の間で扱っても、質問する場合と答える場合とでは全く異なる経験になりますから、質問する立場と答える立場との役割を適度に交替してみましょう。もちろん、その場合、質問する側よりも答える側に立ったときの方が本当の意味での「英語をしゃべる」体験となり、学習体験としてより重要だと考えられます。しかし、質問する側に立った場合でも、あらかじめ用意した質問にこだわることなく、相手の答え次第で、自由に、自然な会話の流れを生かした質問をするように努力することが大切です。そうすれば、「考えながら英語をしゃべる」という形の自己表現という、これまた重要な学習体験となることでしょう。質問はあらかじめ用意しておくとしても、そのときの思いつきをまじえての、アドリブの会話、お互いが自分を表現する場をつくり出すように努めましょう。

## 5 少々のミスは気にせず どんどんしゃべろう！

練習中は、日本語の表現にふりまわされたようなあやまった使い方が出たり、発音上のミスがでたり、それにわからない表現に口が止まったりといったことが予想されます。

でも、そういったことはたいした問題ではありません。たとえ外国人を相手に話している場合だとしても、日本語的なことばづかいになったとしてもそれは何も悪いことでもなければ、バカにされたりするようなことでもありません。発音の問題も同じです。どこの国のひとでも自分の国のことばに見あたらないような音については苦手なのです。それに、わからない単語や表現が出てくることもだれにもあることです。ですから、決してそのようなことを「インタビュー式」英会話の障害とは考えないで下さい。

英文の中に日本語をそのままとり入れて結構だと思います。大切なことはどんどんしゃべることです。ミスはミスと考えずに、大いに日本語まじりの英語をしゃべりましょう。